

令和5年度 調布市立第四学校 学校評価報告書 (学校長 佐藤 政彦)

学校の教育目標		
心ゆたかに 体たくましく 賢い生徒 の育成		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
・生命をいつくしみ, 人の尊厳を重んじる心を育てる学校	・「生きる力」を育て, 個を伸ばす学校	・安全で安心な学校

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価 〔保〕は、保護者の回答	(1) 具体的な取組 ①ふれあい月間(3回), いのちと心の教育月間(1回), 道徳授業地区公開講座(1回)では, 全校体制で取組を工夫し, 他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ②移動教室(1年3日間), 職場体験(2年3日間), 修学旅行(3年3日間)の体験活動を通して見聞を広め, 自然や文化に親しませる。	(1) 具体的な取組 ①校内研修を年間3回以上, 研究授業を年間3回以上行い, 「主体的な学習を促す学習活動の工夫」を推進する。 ②ICT推進教師を中心に活用を推進する。全教員がICTを活用した授業を実施し, 情報活用能力の育成を図る。	(1) 具体的な取組 ①給食委員会・放送委員会を中心に, 生徒の食育における主体的な取組を推進する。また, 毎月の安全指導, 避難訓練により安全な学校環境を構築する。 ②特別支援コーディネーターを中心とした校内委員会(週1回)で, 多様な教育相談の対応を構築し, 心の健康を保持する。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①学校評価で「道徳教育」についての肯定的な回答 90%以上を目指し, 結果は 93.3%であった。(保 54.5%)	①学校評価で「主体的な学び」についての肯定的な回答 80%以上を目指し, 結果は 93.6%であった。(保 80.4%)	①学校評価で「食育・安全」についての肯定的な回答 90%以上を目指し, 結果は 87.6%であった。(保 79.5%)
	②学校評価で「体験活動」についての肯定的な回答 85%以上を目指し, 結果は 92.1%であった。(保 77.7%)	②学校評価で「タブレットの活用」についての肯定的な回答 80%以上を目指し, 結果は 78.6%であった。(保 71.4%)	②学校評価で「教育相談」についての肯定的な回答 85%以上を目指し, 結果は 77.5%であった。(保 87.5%)
学校関係者評価	・生徒会本部の活動をはじめ, 生徒会活動全般が活発に行われていて素晴らしい。 ・「気持ちの良いあいさつ」が行われていてよい。 ・肯定的意見の割合が高く, 全教職員による全校体制での取組の成果が出ている。 ・いじめの未然防止, 早期発見・解決とともに, 道徳教育や心を育む指導の充実がみられる。	・調布市の研究推進校として取り組んだ「一人一台のタブレット端末の効果的な利用」については, 今後も四中の力として推進してもらいたい。 ・学習に向かう前向きな姿勢は, 今までの四中の伝統を引き継いでいると感じた。 ・家庭学習の習慣を, 小学生の頃から定着させていく必要があるのでは。 ・校内研修の取組が, 主体的な学習や協働的な学習に繋がり, 生徒の満足度に表れている。	・不登校傾向の生徒が減少しているのは, 学校の取組の成果だと思われる。 ・相談室の利用状況や SC との相談状況の報告があるとよかった。 ・食育, 生活, 運動は, 健康な生活を送るための土台となるので, 小中が連携して, 9年間の系統性のある指導計画を立ててもよいのでは。 ・週一回の校内委員会により, 相談体制が構築されていることがわかった。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域・小学校との連携	5 社会の一員として活躍する力	6
自己評価	(1) 具体的な取組 ①学校だより(月1回発行), HP(月5回以上更新)等の活用・総合的な学習の時間「ボランティアマインド(地域清掃)」やあいさつ運動等で保護者・地域・小学校との連携を図る。 ②小中連携教育の日を年2回設けるとともに, 小学生の中学校体験を実施し, 小中の交流及び連携を図る。	(1) 具体的な取組 ①「ボランティアマインド」では, 地域清掃, あいさつ運動, 募金活動, 校庭落ち葉掃きを, 「障害者理解」では, 福祉体験を, 「豊かな国際感覚」では, 留学生との交流, 東京グローバルゲイトウェイ(2年1日)での体験的な活動を実施する。 ②キャリアパスポートにより, 自己の学びの状況を見直し, 更には将来を見通す力を養う。	(1) 具体的な取組
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	学校評価で「学校教育の発信」についての肯定的な回答 80%以上を目指し, 結果は 80.9%であった。(保 91.0%)	学校評価で「キャリア教育」についての肯定的な回答 85%以上を目指し, 結果は 94.1%であった。(保 92.0%)	
	学校関係者評価	・学校だよりの「幸せのクローバーみつけ“隊”」は, たくさんの幸せを見つけようとする学校の姿勢が表れていてよかった。 ・HP は学校の情報発信の有効なツールなので, 保護者のニーズを把握しそれを反映することで, より効果的な活用が推進できるのでは。 ・校舎改築に向けて, 小学校との連携を深化させていくとよい。 ・学校評価保護者アンケートの回収率が低いのが気になる。生徒・保護者と一緒に学校を良くしていく	・社会の一員としての力を育むためにも, 様々な体験的な活動があるとよいのでは。 ・先生たちが地域と連携するのも大切だが, 四中生を積極的に地域に出すことも必要ではないか。 ・ルール, マナー, 社会貢献の評価の高さは, 日頃の四中生の姿から感じとれる。 ・四中は地域からの関心が高く, 地域とともにあり, 大切にされている学校であることが, 学校評価アンケート全体から見てとれる。

<p>ためにも、回収率を上げていかなくてはならないのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動など、小中で連携した活動を増やすことで、小中連携を図っていけるとよい。 ・小学校での職場体験の様子をみて、小学生は刺激を受けていた。今後も小中それぞれの児童・生徒が活躍できる場面を設定していけるとよい。 		
---	--	--

人材育成・組織運営		
自己評価	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主幹・主任教諭を核とした組織的な人材育成 主幹・主任教諭に、学習指導案や研修報告等を点検するなどの責務を与え、若手教員を組織的に育成する。 →教員相互の授業参観を通し、主幹・主任教諭からの指導・助言により、若手教員の授業力を向上させた。しかし、様々な教育活動の場面で、組織的・計画的にOJTを推進できなかった。このことは、次年度の課題である。 ○学年・分掌主任の意識の向上 運営委員会や主任会で、学校課題の共有と解決策の検討を行わせ、主任としての意識を醸成する。また、各担当からの起案は、必ず主任を通すことで、担当任せにすることなく責任をもたせる。 →おおむね計画どおり推進することができた。今後も各主任と学校課題を共有し、地域・保護者から信頼され、魅力あふれる学校づくりを目指していく。 <p>【組織運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した学校運営 地域の会合や行事に積極的に参加し、学校だより等により学校の様子を外部へ発信し、地域に開かれた学校運営を推進する。 →地域行事への参加や定例会議への出席など、積極的に地域との連携を図った。また、学校だよりやHPにより、学校や生徒の様子を外部に発信し、開かれた学校づくりを推進した。 	学校関係者評価
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は異動者が多い中で、学校組織を運営するのは大変だったと思う。計画にあるように、主幹・主任を核として教職員全体の意識の向上を図ることが、人材育成や組織運営そして働き方改革にもつながると考える。 ・地域行事に四中生が参加をしてくれて、とても助かった。 	

中期的な経営目標の達成状況	
<ol style="list-style-type: none"> 1 2 3 4 5 	<p>豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めることができた。今後も人権教育・道徳教育を推進していく。</p> <p>基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるために、主体的・対話的で深い学びを実現させることができた。今後は個別最適な学びを実現するためにも、モバイル端末等の活用が課題である。</p> <p>食育の推進に関する指導・安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導を充実させることができた。今後も個に応じた柔軟な支援を推進していく。</p> <p>社会に開かれた教育課程の実現を目指し、保護者・地域と連携して、教育活動の充実に努めることができた。今後も継続していく。</p> <p>社会の一員として活躍する生徒の育成を目指し、「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」を育成することができた。これらの育成項目を、今後も特色ある教育活動に位置付け、推進していく。</p>
次年度の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある学校づくり（豊かな心の醸成、確かな学力の定着、学校行事・特色ある教育活動の充実、生活指導・進路指導の充実） ○特別支援教育の充実（配慮を要する生徒への指導の充実、UD・合理的配慮の推進、校内通級教室・ステップの活用、校内委員会の充実） ○地域・保護者と連携した学校づくり（地域行事への参加、地域学校協働本部の活用と連携、CS導入へ向けた準備） 	